

## 2010 年度 小委員会活動成果報告

(2011 年 2 月 5 日作成)

小委員会名	比較居住文化小委員会		主 査 名：清水郁郎 就任年月：2008 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会 (住宅計画運営委員会)		委員長名：松村秀一 主 査 名：高田光雄
設 置 期 間	2008 年 4 月 ～ 2012 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>グローバリゼーション等、近年の居住文化を取り巻く状況を踏まえ、フィールドワークによる居住文化の研究とその統合を下記の要領で推進する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域に根ざした計画手法の変容に関する比較研究 (各年度)。</li> <li>2. フィールドワークを建築教育に活用するためのマニュアル作成 (2008、2009 年度)。</li> <li>3. フィールドワークを広く応用する方法の検討 (2010、2011 年度)。</li> <li>4. 上記目的に沿ったフォーラム (拡大研究小委員会) の開催 (各年度)。</li> <li>5. 海外の研究者を含む研究者間のネットワークづくり (各年度)。</li> </ol>		
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：有</p> <p>清水郁郎 (芝浦工業大学)・上北恭史 (筑波大学)・内海佐和子 (昭和女子大学)・井上えり子 (京都女子大学)・岡田知子 (西日本工業大学)・角本邦久 (千葉職業能力開発短期大学校)・栗原伸治 (日本大学)・田上健一 (九州大学)・丁志映 (千葉大学)・月舘敏栄 (八戸工業大学)・橋本憲一郎 (東京大学)・濱定史 (東京理科大学)・平田智隆 (芝浦工業大学)・本間健太郎 (東京大学)</p>		
設置 WG (WG 名：目的)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. フィールドワーク・マニュアル WG：刊行企画の推進、編集を主導する (4 回)。</li> <li>2. 情報発信に関わる WG：小委員会独自のウェブページの立ち上げのために、ページの作成、管理運営を行う (4 回)。</li> <li>3. 計画学におけるフィールドワーク事例の整理 WG：計画学におけるフィールドワークをベースとした研究事例を、年度ごとに区切って整理し、アーカイブ化する。</li> </ol>		
2010 年度予算	190,000 円	<p>ホームページ公開の有無：無 (準備中)</p> <p>委員会 HP アドレス：無 (準備中)</p>	

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	1. フィールドワークに出かけよう！- 住まいと暮らしのフィールドワーク
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	1. 公開研究会「建築的フィールドワークの実践と継承-その習得と伝達のプロセス」 参加者数 18 名
大会研究集会	1. 研究懇談会『フィールドワークの未来形-建築的いとなみを再考する-』 参加者数 50 名 (資料名) 同上
対外的意見表明・パブリックコメント等	

<p><b>目標の達成度</b> (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 拡大研究小委員会、研究懇談会の開催を通じ、研究事例の整理と集積、研究者相互の交流が達成されたと同時に、フィールドワーク実践に向けた今後の小委員会活動に有益な知見を得ることができた。</li> <li>2. フィールドワーク・マニュアル刊行を実現することができた。</li> </ol>
<p><b>委員会活動の問題点・課題</b></p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小委員会の活動を公開するサイトの準備を進めたが、サイトの構築に時間がかかっており、公開には至っていない。来年度中の公開に向けて、現在コンテンツの整備を行っている最中である。</li> <li>2. マニュアル刊行について、当初予定の日程に遅れが出てしまったが、今年度中の刊行については間に合いそうな状況である。</li> </ol>

\*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。